

## 22-02DJ 名古屋大学大学院国際開発研究科博士後期課程授業科目の 履修手続について

### 1. 博士論文研究（Ⅰ～Ⅲ）

- (1) 学期はじめに、主指導教員に「博士論文研究」履修を申し出ること。
- (2) 履修内容あるいは単位取得の条件については、主指導教員が説明する。
- (3) 成績は、主指導教員から文系教務課・国際開発研究科担当（以下、GSID教務）に報告する。
- (4) 「博士論文研究」の単位認定条件の詳細は、主指導教員に確認すること。

### 2. 問題発掘型海外実地研究（A又はB）及び国際実務研修（A又はB）

- (1) いずれも博士後期課程の学生が履修するものである。
- (2) 「問題発掘型海外実地研究A・B」は、博士後期課程の学生が、自身の研究テーマに関して日本国外で実地調査を行うものであること。なお、現地の専門家から指導を受けることが望ましい（本研究科の学術交流協定大学又は研究機関の教員等）。
- (3) 「国際実務研修A・B」は、博士後期課程の学生が、外国または日本国内に所在する国際機関、国際協力に関する機関、行政機関、民間団体等の本部または出先機関において、国際的な業務のインターンシップに従事するか、それらの団体で提供される国際的な業務に関わる研修を受けるものであること。この場合、オンラインで提供されるインターンシップ・プログラムまたは研修プログラムへの参加を含む。
- (4) A（1単位）は22.5時間以上、B（2単位）は45時間以上の研究、実習、あるいは研修に適用します。ただし、実習・研修時間中にレポート執筆が含まれているプログラムの場合は、実習・研修の総時間数がAにあっては30時間以上、Bにあっては60時間以上であること。
- (5) 事前に主指導教員を通じて、「計画書」をGSID教務に提出すること。様式はGSIDウェブサイトからダウンロードすること。
- (6) 原則、実施後3か月以内に、以下の書類をGSID教務に提出すること。様式はGSIDウェブサイトからダウンロードすること。
  - ① 単位認定申込書（様式あり）
  - ② 研修時間記録表及び研修実施確認書（様式あり）
  - ③ レポート：  
A4にタイプすること。「問題発掘型海外実地研究A」または「国際実務研修A」にあっては英語1,600語（日本語4,000字）以上のレポート、「問題発掘型海外実地研究B」または「国際実務研修B」にあっては英語3,200語（日本語8,000字）以上のレポートの提出が必要である。剽窃チェックを行い、類似率を①単位認定申込書に記入すること。ここでいうレポートとは、研究、実習あるいは研修中に本人に配布された資料等ではなく、本人が研究、実習あるいは研修期間中に業務として調査執筆したもの、また研究、実習あるいは研修期間中に執筆したレポートがない場合は、研究、実習あるいは研修終了後に実習・研修で得られた知見について考察したレポートをいう。
  - ④ 現地指導者による評価書（様式自由、1ページ程度、実習・研修期間中に執筆したレポートがある場合。）
- (7) 教務学生委員会が、単位授与の形式的要件を満たすかどうか審査する。その後、主指導教員が、内容を審査して成績を決定する。

### 3. 博士前期課程の授業科目

各学期の最初に、博士前期課程の授業科目がリストされたシラバスを参照し、履修登録すること。博士後期課程の課程修了に係る単位として認められる可能性があるかどうかについては、主指導教員に問合わせる。

【博士後期課程の課程修了（短縮修了時）に係る単位として認められる博士前期課程科目】  
全ての博士前期課程科目

上記の科目であっても国際開発研究科博士前期課程からの進学者が、博士前期課程において単位修得した科目は再度履修しても課程修了の単位として数えない。ただし、研究科教授会の承認のうえ関連の特論に読み替えができるものとする。

附 則

この手続は、2018年10月1日から施行する。

附 則

この手続は、2019年12月1日から施行する。

附 則

この手続は、2022年3月2日から施行する。

附 則

この手続は、2023年5月25日から施行する。施行日以降に提出される単位認定申請から適用する。

附 則

この手続は、2023年11月22日から施行する。